

事業概況



あすか製薬メディカル

独自の技術を駆使して 豊かな健康社会づくりに 貢献します

株式会社あすか製薬メディカル
代表取締役社長

堀 英紀

(2025年10月1日就任)



あすか製薬メディカルは「最新の測定技術を通して豊かな健康社会づくりに貢献する」という経営理念のもと、独自の検査事業を展開しています。これまで培ってきた高度な技術と豊富なノウハウを活かし、ステロイドホルモンをはじめとする生理活性物質の測定を中心に、基礎研究、臨床研究、診断などの幅広い分野に貢献します。

近年、高齢化に伴う健康寿命の延伸が重要課題となっています。これを解決するアプローチとして予防医療、未病改善およびセルフメディケーションへの取り組みが注目されていますが、これらヘルスケアを効率的に進めていくうえで、当社独自の高感度測定技術が大きく貢献できると考えています。特に、毛髪、唾液、爪など、非侵襲性かつ自己採取可能な検体を使用した測定キットの開発は、検

査を受けることへのハードルを下げ、受診率の向上に寄与できると考えています。また、内因性ホルモンに対する豊富な知識・技術を活かしたバイオマーカーの開発も健康寿命の延伸に貢献できると考え、アカデミアとのオープンイノベーションを取り入れながら事業を展開しています。

また、新たな領域として、社会問題になっている残留性環境汚染物質PFAS（有機フッ素化合物）について、水、血液、生体組織などの多様なマトリックスに対応した測定法による環境モニタリング事業を開始しました。

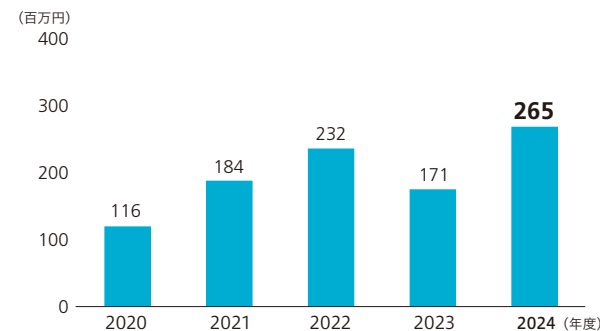
あすか製薬メディカルでは、強みである高感度測定技術を駆使した良質な医療サービスを皆さまにお届けすることにより、「豊かな健康社会づくり」の一翼を担っていきます。

売上高の推移

「湘南ヘルスイノベーションパーク」に拠点を移し検査事業に特化した会社としてスタートした2020年度は、新型コロナウイルス（COVID-19）の影響により売上高が低迷しました。その後、例年と比較して大口受託が少なかった2023年度を除いては、研究検査が順調に推移したこと、および非侵襲性検査キットの発売により売上高が増加しています。

今後は、2025年度に開始した残留性環境汚染物質PFASの受託事業の推進、新たな事業の立ち上げや、研究検査受託に関する営業力強化により、安定した収益を得ることができる体制の構築を目指していきます。

あすか製薬メディカル 売上高の推移



※金額は百万円未満を切り捨てて記載しています

強み

液体クロマトグラフィー・タンデム型質量分析法（LC-MS/MS）による独自の高感度測定技術

多項目一斉ステロイドホルモン測定

超高感度エストロゲン測定

甲状腺関連物質の測定

非侵襲的試料を用いた測定

事業環境

市場環境

- ▶ 医療体制の「病院完結型」から高齢期の患者さんを中心とした「地域完結型」への転換
- ▶ 高齢化などの社会情勢による医療費増加に対する取り組み推進（後期高齢者1人当たりの年間医療費は約92万円で国民平均の約3倍）

- ▶ 健康寿命が延伸する社会の構築を目指した予防医療・未病改善への取り組み推進（2025年までに5兆円規模の医療費・介護費の効果額を目標設定）
- ▶ 良質な医療サービスおよび検査の質向上に向けた検査分野の拡大と分析装置の高性能化

リスク

- ▶ ヘルスケア関連企業間の競争による測定価格への影響
- ▶ 大学、公的機関、企業の研究開発費停滞による受託への影響
- ▶ 求められる検査の質向上に対応するための精度管理やメンテナンスにかかる費用の増加

機会

- ▶ 高齢化に伴う健康寿命延伸への取り組み推進
- ▶ 予防医療、未病改善およびセルフメディケーションの重要性の高まり（検査需要の増加）
- ▶ フェムテック関連事業の成長による市場拡大

戦略

- ▶ 高感度測定技術を活用した微量検体の測定受託（他社との差別化）
- ▶ 高感度測定技術を活用した関連企業との協業

- ▶ 女性ホルモン測定技術を活用したフェムテック関連事業の展開
- ▶ 自己採取可能な検体を用いた非侵襲性測定キットの開発によるヘルスケア事業の展開

2024年度の取り組み

あすか製薬メディカルは、当社の強みである内因性ホルモン高感度測定技術を活かした事業を展開しています。

ステロイドホルモン高感度測定技術を基盤とする非侵襲性検査事業では、わずか1mgの毛髪を採取するだけで測定できる3種類の毛髪ホルモン量測定キット（DHT、テストステロン、コルチゾール）を開発して市場に送り出してきました。さらに2024年度には、毛髪女性ホルモン量測定キット「プロジェス」（プロゲステロン）と2種類のネコ体毛ホルモン量測定キット（甲状腺ホルモン、コルチゾール）を発売し、ラインナップの充実を図っています。

当社の独自技術を活かした取り組みでは、あすか製薬との連携によるフェムテック関連事業への参画、アカデミアとのバイオマーカー開発、社会問題になっている残留性環境汚染物質PFASの高感度測定法の開発など、将来

に向けた取り組みを展開しています。

今後も皆さまからのニーズに応えるため、多岐にわたる領域の検査キットの開発、バイオマーカーの開発、環境モニタリングなどを通じて、皆さまのトータルヘルスケアに貢献していきます。

